

Ⅲ 資本等

1 資本金の状況

機構の資本金の状況は、次のとおりである。

区 分	平成25年度期首	増減額	平成25年度期末
畜産勘定	29,965,359,951円	—	29,965,359,951円
野菜勘定	293,139,653円	—	293,139,653円
肉用子牛勘定	328,562,593円	—	328,562,593円
債務保証勘定	371,650,899円	—	371,650,899円
合 計	30,958,713,096円	—	30,958,713,096円

2 財務の状況

(1) 会計処理

機構は、法人の財政状態及び運営状況を明らかにするため、独立行政法人会計基準に沿った会計処理を行っており、決算に係る財務諸表は、監事及び会計監査人による監査を受け、農林水産大臣から承認された後、機構ホームページに掲載するとともに、官報に公告し、かつ、各事務所において一般の閲覧に供している。

機構の会計は、業務ごとに経理を区分し、畜産勘定、野菜勘定、砂糖勘定、でん粉勘定、補給金等勘定、肉用子牛勘定及び債務保証勘定を設けて整理している。

機構の各種業務を執行した結果、損益計算において利益が生じたときは、前事業年度から繰り越した損失を埋め、なお残余があるときは、その残余の額は、当該勘定において積立金として整理することになっている。一方、損益計算において損失が生じたときは、積立金を減額して整理し、なお不足があるときは、その不足額は、繰越欠損金として整理することになっている。

また、補給金等勘定においては、損益計算において利益が生じたときは、前事業年度から繰り越した損失を埋め、なお残余があるときは、農林水産大臣の承認を受けて残余の額の100分の80以内の額を畜産勘定の畜産業振興資金に繰り入れることができることになっている。

(2) 損益等

ア 畜産勘定

当勘定においては、指定食肉の売買保管等業務、指定乳製品、指定食肉又は鶏卵等の調整保管事業に対する補助業務、学校給食用牛乳供給事業に対する補助業務及び畜産業振興事業に対する補助業務、畜産物に関する情報収集提供業務、畜産関係団体に対する出資に係る株式又は持分の管理業務の経理を行っている。

当勘定の損益は、収益が、調整資金戻入益952億2841万5千円、畜産業振興資金戻入益170億7676万9千円、運営費交付金収益4億6897万2千円、過年度補助事業費返還金691億3493万7千円、運用利息、雑益等10億6800万6千円を加えた1829億7709万8千円で、費用が、学校給食用牛乳供給事業費7億2015万6千円、畜産業振興事業費1315億388万円、情報収集提供事業費2億5485万4千円、肉用子牛勘定への業務財源繰入41億5579万9千円、畜産業振興資金繰入447億6057万7千円、これらに補助業務に係る業務費及び業務委託費並びに一般管理費等15億8184万4千円

を加えた1829億7711万円となったことから、12千円の当期損失となった。

この結果、次期繰越欠損金は12千円となった。このほか積立金として、前中期目標期間繰越積立金8億6998万7千円がある。

25年度の畜産業振興事業は、肉用牛・養豚等の経営安定対策等25項目の事業に対して補助金を交付した。

また、調整資金の収支は、収入が政府からの交付金608億3534万円、支出は、畜産業振興事業費に907億5026万3千円、肉用子牛補給金等事業費に41億4653万7千円、畜産物の価格安定等の事業費に1億8573万6千円、一般管理費に1億4587万9千円であった。

一方、畜産業振興資金の収支は、収入が政府からの交付金44億1707万5千円、生産者等からの拠出金175億7866万7千円、運用利息等、雑益、過年度補助事業費返還金、調整資金運用利息等の受入が708億5695万1千円、支出は、学校給食用牛乳供給事業費に7億2015万6千円、畜産業振興事業費に407億6931万2千円の補助を行ったほか、これらに係る業務費、業務委託費、一般管理費等が6億589万5千円であった。

なお、畜産自給力強化緊急支援事業及び国産牛肉信頼回復対策事業に係る返還金等37億347万8千円については、不要財産として国庫納付した。

イ 野菜勘定

当勘定においては、指定野菜価格安定対策事業、契約指定野菜安定供給事業、特定野菜等供給産地育成価格差補給事業、緊急需給調整事業、野菜に関する情報収集提供業務の経理を行っている。

当勘定の損益は、収益が野菜生産出荷安定資金戻入益88億1083万9千円、野菜農業振興資金戻入益6億3058万7千円、野菜価格安定対策推進事務費補助金戻入益1億4634万4千円、運用利息、雑益等10億4531万円を加えた106億3308万1千円で、費用が野菜価格安定対策事業費90億2128万1千円、野菜農業振興事業費6億4609万円、情報収集提供事業費3797万3千円、これらに係る業務費及び一般管理費等6億1278万6千円を加えた103億1813万円となったことから、3億1495万円の当期利益となった。

この結果、積立金は、3億1495万円となった。

また、野菜生産出荷安定資金の収支は、収入が政府からの補助金34億4972万8千円、生産者等からの拠出金45億4832万5千円、運用利息の受入2億1044万2千円、支出は、交付金に90億2128万1千円、負担金返戻に2億6033万4千円であった。

一方、野菜農業振興資金の収支は、収入が政府からの補助金14億5978万9千円、生産者からの拠出金1625万8千円、運用利息等の受入1550万3千円、支出は、助成金に6億4609万円、負担金返戻に1億4891万3千円であった。

ウ 砂糖勘定

当勘定においては、価格調整措置の実施に必要な輸入指定糖の買入・売戻業務、異性化糖等の買入・売戻業務及び甘味資源作物の交付金交付業務、国内産糖の交付金交付業務と砂糖に関する情報収集提供業務の経理を行っている。

当勘定の損益は、収益が、糖価調整事業収入560億9281万円、甘味資源作物・国内産糖調整交付金戻入益88億188万1千円、運営費交付金収益7億1696万7千円、

資産見返運営費交付金戻入等778万円、過年度補助事業費返還金等5862万円、財務収益及び雑益325万3千円を加えた656億8131万1千円で、費用は糖価調整事業費が613億9245万3千円、情報収集提供事業費4769万4千円、これらに係る業務費及び一般管理費等13億612万5千円を加えた627億4627万2千円となったことから、29億3503万9千円の当期利益となった。

この結果、前期繰越欠損金298億1320万1千円に当期利益を充当し、次期繰越欠損金は268億7816万3千円となった。

エ でん粉勘定

当勘定においては、価格調整措置の実施に必要な輸入指定でん粉等の買入・売戻業務及びでん粉原料用いものの交付金交付業務、国内産いもでん粉の交付金交付業務とでん粉に関する情報収集提供業務の経理を行っている。

当勘定の損益は、収益が、でん粉価格調整事業収入95億6120万7千円、運営費交付金収益2億3094万1千円、資産見返運営費交付金戻入242万9千円、過年度交付金返還金等742万3千円、財務収益及び雑益216万8千円を加えた98億416万8千円で、費用がでん粉価格調整事業費108億634万2千円、情報収集提供事業費1986万1千円、これらに係る業務費及び一般管理費等2億1391万6千円を加えた110億4011万9千円となったことから、12億3595万1千円の当期損失となったが、前中期目標期間繰越積立金を同額取崩し損失に充てたため、当期損益は0円となった。

この結果、前中期目標期間繰越積立金は、29億2780万8千円となった。

オ 補給金等勘定

当勘定においては、加工原料乳についての生産者補給交付金交付業務及び輸入乳製品の売買業務に係る経理を行っている。

生産者補給交付金交付業務については、政府から生産者補給交付金の財源163億7215万7千円を受け入れ、交付対象数量160万トンについて201億1748万3千円の生産者補給交付金を交付した。

次に、輸入乳製品の売買業務については、バター3,482トン、脱脂粉乳4,970トン、ホエイ4,296トン、デリースプレッド274トン、バターオイル241トン及びT E（関税相当量）分として409トンの買入れを行い、25年度内に全量の売渡しを行った。

これらの結果、当勘定の損益は、収益が、指定生乳生産者団体補給交付金戻入益163億7215万7千円、輸入乳製品売渡収入86億3647万円に運用利息、雑益等1892万1千円を加えた250億2754万8千円で、費用が、加工原料乳生産者補給交付金交付事業費201億1748万3千円、輸入乳製品売買事業費62億8049万8千円、これらに係る業務費及び一般管理費等3億2563万2千円を加えた267億8666万1千円となったことから、17億8049万7千円の当期損失となったが、前中期目標期間繰越積立金を同額取崩し損失に充てたため、当期損益は0円となった。

この結果、前中期目標期間繰越積立金は、169億940万2千円となった。

カ 肉用子牛勘定

当勘定においては、肉用子牛についての生産者補給交付金交付業務に係る経理を行っている。

当勘定の損益は、収益が、畜産勘定から受け入れた業務財源41億5579万9千円、運営費交付金収益4197万8千円、過年度補助事業返還金1373万3千円、運用利息及び雑益340万8千円を加えた42億1492万円で、費用が、生産者補給交付金6億9178万3千円、生産者積立助成金24億7838万5千円、これらに係る業務費、業務委託費及び一般管理費10億4475万3千円を加えた42億1492万円となったことから、当期損益は0円となった。

キ 債務保証勘定

当勘定においては、乳業者等に対する求償権の管理業務に係る経理を行っている。

平成25年度は1万6千円の求償権の回収があったため、求償権の期末残高は、1者に対する1億8076万円となっている。

当勘定の損益は、収益が、運用利息、貸倒引当金戻入益、雑益を加えた365万7千円で、費用が、求償権回収業務費及び一般管理費122万3千円となったことから、243万3千円の当期利益となった。

この結果、積立金は、243万3千円となった。